

IX学校評価

◆学校関係者評価委員会 開催記録

開催日時 平成27年6月15日(月) 15:00~17:00

開催場所 専門学校文化デザイナー学院 2階 L201 教室

委員数 13名

出席委員 13名

茨城県中小企業団体中央会 総務企画課課長 新名 勝彦

株式会社光和印刷 制作部部长 岡田 寛和

株式会社藤代範雄デザイン事務所 竹越 萌野(卒業生)

水戸ステーション開発株式会社 取締役企画部長 山田 行雄

アスクワーク有限公司 青木 唯(卒業生)

株式会社ジェイディーアールスミヤ 代表取締役 住谷 強生

茨城インテリアコーディネーター協会 会長 高橋 琢

株式会社関根工務店 代表取締役 関根 貴雄

株式会社根本建築設計事務所 阿久津 裕司(卒業生)

専門学校文化デザイナー学院 校長 飯村 雅史

専門学校文化デザイナー学院 教務部長 荒井 真次

専門学校文化デザイナー学院 教務主任 塙 麻美

学校法人リリー文化学園 事務局長 菅谷 守

委員会次第

■委員紹介

- ・活動報告資料

①委員名簿

■校長挨拶

■報告事項

- ・活動報告資料

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生の受入れ募集

⑥社会貢献・地域貢献

- ・職業実践教育課程の基本情報について（新委員のみ添付）

■平成 26 年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

- ・企業・団体等 連携課題実施計画書及び報告書

■協議事項

- ・評価項目に関する評価

①教育理念・目標

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生支援

⑥教育環境

⑦学生の受入れ募集

⑧財務

⑨法令等の遵守

⑩社会貢献・地域貢献

⑪国際交流

■学校関係者評価委員会開催記録議事録署名人の推薦と確認

(委員会の開催)

■報告事項

「職業実践専門課程」の今後の流れについて飯村校長より報告。

平成 26 年度修了制作展について荒井教務部長より報告。

■協議事項

前回の自己点検・自己評価への委員評価を反映した今後の改善方策等について飯村校長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

評価基準 3 教育活動

○質疑応答

(住谷委員)

販売という職業でいうなら、授業の中で人間力を養ってほしい。実際の現場には相手がいる。販売力を養う必要がある。売り手と買い手では正反対の考え方をする。人間力のある人は相手の答えを導き出せる。ファッションのコーディネーターが上手くても販売力には結び付かない。現場では 30 箱ある段ボールに詰まった洋服を 2, 3 時間で片付けなければならない時もある。時間をかけて出来ても短時間で出来ないと現場では通用しない。そういった実習も学校で出来ると現場に出た時に生きてくる。

(荒井教務部長)

教材の部分で調整が必要になる。後で相談させてほしい。

(住谷委員)

バーゲンの時期などアルバイトを雇うが教える事に時間がかかる。いない方がいいと思う事もある。作業の効率を考える授業があると良いのではないか。

(荒井教務部長)

販売管理は座学中心になっているので、実習についても検討したい。

(関根委員)

学生満足度アンケートを見たが、学生から講師への良い意見、悪い意見をどう講師に伝えて講師や授業に反映させているのか。

(荒井教務部長)

前後期で講師会を行っており、学生満足度アンケートもその際に講師に配付している。また、それ以外であっても学生から講師や授業に対して意見があって、改善すべきと判断すればその都度講師と面談を行い、授業内容や指導方法の検討をしている。

(関根委員)

当社でも社員には人間力、コミュニケーション能力の大切さを伝えている。社会に出てから人間力、コミュニケーション能力が必要と学校でも教えているか。学生のうちに人間力、コミュニケーション能力が身に付けられれば働いてから必ずプラスになる。

(荒井教務部長)

キャリアデザインという教務が行う授業がある。就職についてなどが中心になっており、コミュニケーションについて中心に教えているのではないが、コミュニケーションについても指導をしている。また、水戸まちなかフェスティバルなどのイベントは、それ自体を楽しむ目的もあるが地域の人とのコミュニケーションの場として捉えている。学年や学科を超えたコミュニケーションを図れる場としても新入生歓迎会や水戸デザインといった学内のイベントを行っている。

(阿久津委員)

他校の学生と触れ合う機会はあるのか。

(荒井教務部長)

カレッジリーグという他分野の専門学校4校とリーグを組んでおり、高校生に向けた体験ブース形式の進路説明会を行っている。その際、学生スタッフとして一部の学生は他校の学生スタッフと触れ合う機会があるが、一部の学生に限られる。

(阿久津委員)

同分野で学んでいる他校の学生と触れ合う機会があると良いと思う。学内だけの付き合いになると段々と慣れが出てくる。他校の意識の高い学生と交流があると、自分はまだまだなのだという気持ち生まれ、意識も向上する。

(荒井教務部長)

一部の学生は県の学生建築展や日本建築家協会の学生課題設計コンクールなどに出展し、他校の学生や学生作品と触れ合う機会があるが、これも一部の学生に限られている。全ての学生がそういう機会を持てるよう検討したい。

○委員意見

(新名委員)

コミュニケーション能力を高める事の出来るカリキュラムが必要ではないか。

(岡田委員)

自分の作品を発表するコミュニケーション能力の他にも、クライアントから要望を聞き出す能力について学ぶ事が出来ると良いのではないか。

学生満足度アンケートは素晴らしい。アンケートでの意見も取り入れており、講師や授業内容を改善するシステムが取られている。

(青木委員)

授業時間内で制作しなければならない課題もあれば、持ち帰って家で時間をかけて制作出来る課題もある。スピード重視の課題、クオリティー重視の課題と両方バランス良くあると良いのではないかと感じた。

評価基準4 就学成果

○質疑応答

(岡田委員)

退学率についてだが、退学の理由にはどんなものがあるのか。

(荒井教務部長)

やりたいことへの方向性の違い、というものがある。また、高校生全体として通信制高校に通う生徒の割合が増えてきており、通信制高校から本校への入学者も増えている。毎日学校へ通う事自体に慣れていないため、入学してから学校生活に適応できないという場合もある。

(岡田委員)

インデザインの授業が組み込まれたことはよかったと思う。当社でもデザイン部門と制作部門に分かれており、制作部門はインデザインも使えるが、デザイン部門はイラストレーターに特化している。インデザインの需要は増えており、今後はインデザインも使えないと困る。当社でも全社的な取り組みを始めた。

(竹越委員)

広告プロモーションデザイン学科の就職率 97%は、正社員以外にどのような雇用形態までを就職したとしているのか。アルバイトなども就職に含まれるのか。

(荒井教務部長)

試用期間としてアルバイトで採用してから正社員登用の流れを取っている企業もある。そういった場合は就職したもものとして就職率にも含まれている。

(竹越委員)

ファッションコーディネート学科はアルバイトから正社員への就職が決まったりもするのか。

(荒井教務部長)

それで就職が決まった学生もいる。

(新名委員)

学校と学生の関係が密だという印象を受けた。また就職率が高い事にも驚いた。専門学校を卒業しても畑違いの分野へ就職するという話を聞くがそれはどうか。

(荒井教務部長)

ファッションコーディネート学科とインテリアデザイン学科は分野違いに就職することはあまりない。広告プロモーションデザイン学科は販売促進とデザインの仕事を半々で行いながらという形態での就職はある。学生自身もそれをやりたいと就職していく。

(新名委員)

就職して配属されてもやりたい仕事がないという話をよく聞く。中小企業も人手不足なので、協力していきたい。

(高橋委員)

二級建築士、インテリアコーディネーターなど国家資格の合格率は上がったか。

(荒井教務部長)

二級建築士の合格率は上がっていない。平成 26 年度は 0 名だったため、講師とカリキュラムや指導方法等の見直しを行い、現在合格に向けて取り組んでいる。

(高橋委員)

国家資格は一つのバロメーターになる。合格率が高くなれば、この学科に入学したらこの国家資格が取れるという事を対外的にアピールでき、入学してくる学生の質・量も増えるのではないかと。学生も国家資格を取れば自信になる。企業にしても資格を持っていない者より持っている者を採用するので、就職率の向上にも繋がる。

(荒井教務部長)

次年度のインテリアデザイン学科3年生から、二級建築士とインテリアコーディネーターを分けて、取りたい方の資格勉強が出来るカリキュラムになっている。一つの資格に絞って勉強する事で合格率を上げていきたい。

(高橋委員)

次回に期待したい。

○委員意見

(岡田委員)

修了制作展を見学して、プレゼンテーション能力に差を感じた。得意不得意もあると思うが、遠慮してしまう学生、声が小さい学生もいた。リーダーになれる人材を企業は求めているので、グループ活動を行う中で全員がリーダー的な役割を経験出来るようなカリキュラムがあると良いのではないか。

課題も多く難しいかもしれないが、「働く」経験を積んでおけると企業に採用後、仕事に慣れるまでがスムーズかと思う。

(青木委員)

広告プロモーションデザイン学科でも国家資格を目指せる授業が出来た事はとても良い事だと思う。WEBは苦手意識を持つ学生がとても多いと在学中から感じていた。目標が明確になれば学生の授業への取り組み方にも良い影響が出るのではないか。

評価基準5 学生支援

○質疑応答

(竹越委員)

卒業生への支援体制とは具体的にどういったことか。学校の自己評価が2になっているのは、卒業生への支援が足りていないということか。

(荒井教務部長)

本校は茨城デザイン振興協議会の事務局にもなっている。共催で講演会を行ったりもするので、そういった機会に声をかけたり、卒業生と触れ合う機会を考えていきたい。

(飯村校長)

卒業生向けにWEBの授業を行う事を講師に依頼することも検討したい。卒業生と話しているとそういうニーズがあると感じる。

(竹越委員)

WEB やインデザインの授業を卒業生でも受講できれば活用したい人は多いと思う。写真の撮り方、最新版のアプリケーションソフトの使い方などの授業も良いのではないか。

(青木委員)

全体的にイベントが増えており、学生にはいい機会だと思うが、経費はどうなっているのか。

(荒井教務部長)

水戸市や連携している企業からの出資や学校から出す事もある。

(青木委員)

課題作品など制作費にお金をかけられない学生もいる。授業の発表の際にそれで支障が出ないようにはしてほしい。

(荒井教務部長)

ファッションコーディネート学科で言うと、洋服や生地などは課題で連携しているワンダーレックスに協力していただいている。だが、もう少し学生の負担が減るようにサポートしていきたい。

○委員意見

(岡田委員)

仕事をする上で健康であるという事は意外と重要である。センスがあっても休みがちでは困る。健康管理も大切だという事を伝える時間があると良いのではないか。

(山田委員)

卒業して日が浅い時期の支援体制は出来ていると思う。卒業生の意識、経年を考えてもとても努力していると感じた。現在の学校の規模だから出来ているのだとしたら、専門職業大学となって規模が大きくなった場合に同様の支援体制が取れるか。

(青木委員)

以前に比べてイベント等への参加が増えているので、経費等の学生への負担が気になったが、各企業の協賛があるとの事で安心した。学生が思いきりイベントへ取り組める配慮が出来ていると感じた。授業等の制作物の材料費などについても相談できる環境作りを心掛けてもらいたい。

(高橋委員)

4月の保護者説明会以外にも保護者と係わる機会が必要ではないかと感じた。海外留学プログラムなどは難しいだろうか。

評価基準6 教育環境

○質疑応答

(青木委員)

学生満足度アンケートを見ると、ファッションコーディネート学科でミシンの数が足りないという意見が出ている。

(荒井教務部長)

今年度は学生数分確保している。

○委員意見

(青木委員)

学生満足度アンケートに空調についての意見が多く書かれていたので、空調設備の入替えが出来て良かった。ミシンやPCは授業で使用する際に不足や不調があると学生の意欲が無くなったり、制作の進行が遅れたりするので、今後も整備が行き届くようにしてほしい。

評価基準7 学生の受け入れ募集

○委員意見

(高橋委員)

卒業生の活躍はどんどんPRすべきだと思う。

評価基準9 法令等の遵守

○質疑応答

(高橋委員)

カリキュラムも時代の流れに対応しており、サポート体制も整っている。柔軟にバックアップをされていて大学とは違うと感じた。専門職業大学を見据えていくとなると、コンプライアンスの指導はますます必要になる。コピーアンドペーストの問題が取り沙汰されているが、してはいけない、自分のためにならないという事の意識付けを頭が柔軟な1年生のうちに行ってもらいたい。

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

○質疑応答

(高橋委員)

水戸の表通りの商店街に活気がないのは周知の事実だと思う。希望としては、今よりもっと盛り上げて活性化に寄与してもらいたい。

○委員意見

(新名委員)

社会貢献・地域貢献活動は、接客力や社会性を身につける場でもあると理解した上で、取り組む必要があるのではないかと。

(岡田委員)

素晴らしい活動をしていると思う。活動後に反省会が行われると良いと思う。良かった、で終わりにしないようにマイナス面も含めた振り返りが必要である。

その他委員意見

○質疑応答

(山田委員)

読売新聞の専門職業大学についての記事にもあったが、専門職業大学を目指しているのであれば、学生の規模をどれくらいまで拡大するのか。現行のままの規模なのか。

(荒井教務部長)

まだ認定要件が出ていない。図書館が必要などの要件が出るかもしれない。本校でどこまで対応出来るかにもよるので、それによって規模も考える。

(飯村校長)

大学は運動場が必要だったり、大学教授という肩書を持つ者が必要だったりする。だが、人を抱え込むと情報はどんどん古くなる。専門職業大学は世の中の動きに対応していかなければならない。それを文部科学省がどう考えるかによって募集も増やす必要性が出てくる。だが、現在の規模、スモールパッケージの良さがある。

(山田委員)

規模が大きくなると学生へ目が届かなくなる。このままの規模で運営してほしい。

(住谷委員)

専門学校は重要だと思っている。今は大学を卒業しても何も出来ない人が多い。そこでなぜあえて専門職業大学にしなければならないのか。昔は小学校しか出ていない大工などの職人も多くいたが、今はそういう職人がいなくなった。専門性を考えたら専門職業大学より専門職業高校の方が良いのではないか。専門職業大学よりも早く職に就くことが出来る。

(荒井教務部長)

専門職業大学は専門学校だけでなく、大学もなれる。現在、18歳人口の低下という問題があり、大学全入時代となっている。大学か就職か、専門学校に進学するなら大学へという流れが強くなっていく。大学はグローバル化の方向に進んでいるが、グローバル化の波に乗れない大学は専門職業大学への方向転換をしてくるだろう。職業を意識した専門職業大学なら補助金を出すという方針を文部科学省が出している。デザイン分野の希望者は爆発的に増加することはないが、安定している。専門職業大学を目指すことは時代に合わせた選択と考えている。

(飯村校長)

講師を呼ぶのも無料ではないし、学生を視察に連れていくにも費用がかかる。専門職業大学となり補助金が出れば、その分、授業料などの学生の金銭的負担を減らす事も出来る。現在の大学と同じ位置付けではなく、無理矢理に専門職業大学にしようとしているわけではないのでご理解いただきたい。

各評価項目の評価終了。

飯村校長閉会挨拶。

荒井教務部長より学校関係者評価委員会開催記録署名人の推薦と確認。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

◆自己評価・学校関係者評価の結果

学校関係者評価委員評価シートの公開(委員評価は四捨五入により表示)

評価基準1 教育理念・目標

- I 教育理念
- II 教育目標
- III 教育方針
- IV 年度目標

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	④	3	2 1
2	学校における職業教育の特色は明確か	4 ③ 2 1	4	③	2 1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1	4	③	2 1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	4 ③ 2 1	4	③	2 1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1	4	③	2 1

評価基準2 学校運営

- I 学校運営の方針
- II 授業計画
- III 学校組織のありかた
- IV 意志決定のプロセス
- V 業務の効率化

評価項目		学校自己評価	委員評価			
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切				
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1	4	③	2	1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1	4	③	2	1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1	4	③	2	1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1	4	③	2	1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	4 3 ② 1	4	3	②	1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	4 ③ 2 1	4	③	2	1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	4 ③ 2 1	4	③	2	1

評価基準3 教育活動

- I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
- II 各学科の概要
- III カリキュラム
- IV 単位認定・成績評価の考え方
- V 資格取得・国家資格に向けた授業
- VI 業界との協力体制
- VII 企業・団体等連携授業
- VIII 業界からの授業成果に関する協力
- IX 修了制作展 作品の展示
- X 実践的な職業教育(インターンシップ)

評価項目		学校自己評価				委員評価			
		4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切	4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1	4	③	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1	4	③	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1	4	③	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1	4	③	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1	4	③	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携による、インターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	④	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	④	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	④	3	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	③	2	1	4	③	2	1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1	4	③	2	1
11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1	4	③	2	1

12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

評価基準4 修学成果

- I 就職指導の全体方針
- II 就職目標設定と24年度報告
- III 就職に対する本校の特徴
- IV 就職指導体制

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4 3 ② 1	4 ③ 2 1		
2	就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1		
3	就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
4	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
5	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
6	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
7	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		

評価基準5 学生支援

I 学生支援体制

評価項目	学校自己評価	委員評価	
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切		
1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
2 学生相談に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	
3 学生にたいす経済的な支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
4 学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
5 学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
6 保護者と適切に連動しているか	4 3 (2) 1	4 3 (2) 1	
7 卒業生への支援体制はあるか	4 3 (2) 1	4 (3) 2 1	

評価基準6 教育環境

I 施設・設備状況

II 防災・災害に対する対応

III 保険への加入

評価項目	学校自己評価	委員評価	
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切		
1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	
3 防災に対する体制は整備されているか	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	

評価基準7 学生の受け入れ募集

- I 募集の動き
- II 広報媒体
- III 募集体制
- IV 学費

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	学生募集活動は適正に行われているか	4 ③ 2 1	④ 3 2 1		
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ② 2 1	4 ③ 2 1		
3	学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
5	高等学校への直接訪問を行っているか	4 ③ 2 1	④ 3 2 1		

評価基準8 財務

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4 3 ② 1	4 3 ② 1		
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1		
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		

評価基準9 法令等の遵守

I 個人情報の保護

II 学校自己点検・自己評価

III 学生作品と著作権の問題

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
4	自己評価の結果を公開しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		

評価基準10 社会貢献・地域貢献

I 企業・団体等連携の成果

II 企業・団体等連携の一覧

評価項目		学校自己評価	委員評価		
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切			
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1		
2	学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
3	取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		
4	企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1		

平成 27 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>①評価基準 3 教育活動</p>	<p>◆平成28年度より企業と連携が取れるように検討する</p> <p>対象：ファッションコーディネート学科</p> <p>授業：ショップ運営</p>
<p>①委員意見(住谷委員)</p> <p>販売という職業でいうなら、授業の中で人間力を養ってほしい。実際の現場には相手がいる。販売力を養う必要がある。売り手と買い手では正反対の考え方を考える。人間力のある人は相手の答えを導き出せる。ファッションのコーディネーターが上手くても販売力には結び付かない。現場では 30 箱ある段ボールに詰まった洋服を 2, 3 時間で片付けなければならない時もある。時間をかけて出来ても短時間で出来ないと現場では通用しない。そういった実習も学校で出来ると現場に出た時に生きてくる。</p>	<p>①販売の実践力とは、接客に関するコーディネート力やサービス接遇力だけではない。商売を行う上では商品を管理する力も必要となってくる。もちろん商品の仕入れなども、魅力ある仕事のひとつではあるが、現実的な仕事として商品の搬入や管理、陳列をしなければならない。それらの仕事があることはファッションビジネス検定や販売士の試験等でも習うことではあるが、求められていることは実践力である。新人として売り場に立たされた時に、最低限出来なくてはならないことが商品管理である。実践的なことを求められる現場で役に立てる人材を育成したい。実習授業を行うとなれば、より現場に近づくことになる。企業等に依頼する形にはなるだろうが可能な限り直近の時期で実施することを予定したい。</p>
	<p>◆平成28年度よりキャリア教育に必要な内容を検討する</p> <p>対象：全学科全学年</p> <p>授業：キャリアデザイン</p>
<p>②委員意見(関根委員)</p> <p>当社でも社員には人間力、コミュニケーション能力の大切さを伝えている。社会に出てから人間力、コミュニケーション能力が必要と学校でも教えているか。学生のうちに人間力、コミュニケーション能力が身に付けられれば働いてから必ずプラスになる。</p>	<p>②各委員から多く頂く意見である。新しく委員の依頼をした関根委員からも同じ意見を頂いた。会社の運営に携わる方々から必ずと言っていいほど、人間力とコミュニケーション力の大切さについて話を聞く。近年、企業へ入社する新人に多いのは、それらが欠落しているからこそ起こる早期退職である。問題を解決する能力がないためにその場所にいられなくなってしまう。企業としても、サポートをする努力をしているが、それでも辞めてしまい、また退職することへの躊躇が感じられない。</p>

	<p>学校でも、退学することに抵抗を感じないまま学校を去っていく者もいる。今まで形成されてきたものがあるので、それを急に身に付かせる事は難しい事である。しかし、上級教育機関である本校では、イベントや作品制作を通して人間力やコミュニケーション力を成長させてあげるプログラムを仕組みから考えてはいる。しかし、現状を聞くと更にサポートを充実させる必要がある感じも受けている。キャリアデザイン等の授業を中心に、内容を充実させる取り組みを考え、専門の方をお呼びして、何か講義やワークショップなどを考えても良いかも知れない。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
	<p>◆平成28年度より他校の学生や作品などに触れる機会を検討する 対象:全学科全学年 授業:キャリアデザイン</p>
<p>③委員意見(阿久津委員) 他校の学生と触れ合う機会はあるのか。</p>	<p>③同分野の学生と触れ合う機会は、カレッジリーグの活動や学生設計コンクール等で一部の学生のみ に機会を与えられているのが現状である。卒業生が社会に出て感じた事を真摯に受け止めたい。日本 建築家協会の学生設計コンクールでは、北関東の大学生・短大生・専門学生・高校生の各県の代表と なった作品が飾られる。更に、第一次審査は公開審査となっているので、他の学生がプレゼンテーション を行っている姿を見る事ができる。やはり大学生の作品は作品のクオリティも高く参考になる。高校生の 作品でも基本に則った作品ではあるが、目を見張るものがある。双方に見る価値があり、刺激を受ける 事は間違いない。作品を出品しなくても、その場には行く事ができるので、どんな形で見学に行くのかは 検討するにしても、学年単位等で参加する機会を考えていきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
	<p>◆平成28年度よりデザインでの解答の出し方を講師と連携して授業を行う</p> <p>対象：全学科全学年</p> <p>授業：修了制作に関わる授業</p>
<p>④委員意見(岡田委員)</p> <p>自分の作品を発表するコミュニケーション能力の他にも、クライアントから要望を聞き出す能力について学ぶ事が出来ると良いのではないかな。</p>	<p>④今の学生には、最も苦手な作業である。しかし、デザインには欠かせないものなので、その重要性を伝えるとともに、授業にでもっと実践していきたいと考えている。修了制作の授業では、クライアントを招いて最初にレクチャーを行って貰えるよう、お願いをしている。そこから各々が作品を完成させるまでのプロセスとして、ヒアリングの回数が足りているかという、学校が用意しているヒアリングの機会だけでは、実際に社会に出て仕事をするときと比べると少なく、全体的に不足していると感じてはいる。それを納得のいく形にしていくためには、自分の作品に対する熱意が必要となる。講師の指導に対して回答を出すのであれば、現地に行きクライアントの話を聞く事が最も重要な事になってくる。楽をしてデザインを完成させる事を覚えるのではなく、答えの出し方を覚えられる授業を今後展開していきたいと考えている。</p>
<p>◆意見項目</p> <p>⑤評価基準4 就学成果</p>	<p>◆平成28年度も引き続き国家資格に関連する授業の内容とテキストの検討を行う</p> <p>対象：全学科</p> <p>授業：資格取得に関わる授業</p>
<p>⑤委員意見(高橋委員)</p> <p>国家資格は一つのバロメーターになる。合格率が高くなれば、この学科に入学したらこの国家資格が取れるという事を対外的にアピールでき、入学してくる学生の質・量も増えるのではないかな。学生も国家資格を取れば自信になる。企業にしても資格を持っていない者より持っている者を採用するので、就職率</p>	<p>⑤国家資格はインテリアデザイン学科にて二級建築士を目指せる。近年、思うように合格率を出せていない現状であったが、今年度はまずまずの結果を残す事ができた。しかし、全員合格が目標なので、更なる試行錯誤が必要となる。指導方法を大きく変える事も視野に入れ、学生のためになる指導方法を考え満足する合格率を導き出したい。また、広告プロモーションデザイン学科3年生の学生が初めて国家資格の受験に挑む。対策授業は行われているが、学生の理解度を確認すると講師も心配な様子で</p>

<p>の向上にも繋がる。</p>	<p>あった。初年度ということもあり、学生の理解度がどの辺りまで到達すれば合格できるのかが読めないとこではある。今年度に限っては、特別に補講を行う事も予定している。試験会場に登録する事も可能などところまで作業が進んでおり、後日協会の方が来校し、試験会場に相応しいか確認をする。少しでも、学生が有利になる環境を用意したい。</p> <p>(ウェブデザイン技能検定試験(国)→試験会場認定校取得)</p>
	<p>◆平成28年度よりプレゼンテーションを行うために必要な指導を検討する</p> <p>対象:全学科全学年</p> <p>授業:プレゼンテーションに関わる授業</p>
<p>⑥委員意見(岡田委員)</p> <p>修了制作展を見学して、プレゼンテーション能力に差を感じた。得意不得意もあると思うが、遠慮してしまう学生、声が小さい学生もいた。リーダーになれる人材を企業は求めているので、グループ活動を行う中で全員がリーダー的な役割を経験出来るようなカリキュラムがあると良いのではないか。</p> <p>課題も多く難しいかもしれないが、「働く」経験を積んでおけると企業に採用後、仕事に慣れるまでがスムーズかと思う。</p>	<p>⑥これも本校の学生指導には欠かせないものである。やはり、全員が上手にプレゼンテーションをできる訳ではない。ただ、岡田委員が言うように企業はリーダーシップのとれる者を求めている。需要と供給があっていない現実があり葛藤する部分である。それをそのままにしておく事はできないので、対策が必要となる。各学生が今までの自分の枠を超えるような最大限のプレゼンテーション能力を身に付けさせたい。プレゼンテーションは発表する事だけが全てではない。資料をどれだけ揃えるか、自分の考えをきちんとまとめ、また事前に行ったリサーチやヒアリング、アンケートなどの結果をまとめるなど、様々な努力をする事ができる。これらの準備ができていけば、企業の見る視点も変わってくる。こういった準備をする事は、デザインを制作する上でも必要な事なので、授業を通して指導していく事は十分に可能である。あとは、学生にもなぜそれが必要であるのかを意識させる必要がある。社会に出てから必要であるという現実を伝えながら指導していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>⑦評価基準5 学生支援</p>	<p>◆平成28年度より卒業生へのアプローチと支援体制を考え実施することを検討する</p> <p>対象：学校</p> <p>授業：</p>
<p>⑦委員意見(竹越委員)</p> <p>卒業生への支援体制とは具体的にどういったことか。学校の自己評価が2になっているのは、卒業生への支援が足りていないということか。</p>	<p>⑦卒業生への支援は、各団体とタイアップして行っている講演会など、窓口を広くして呼びかけをしている。講演会の会場では、卒業生が参加してくれて知っている顔を見る時がある。また、卒業生の交流を継続させる事を目的として、4年に一度の大同窓会も行っている。直接的な支援という形で何かを行ってはいない。卒業生からの意見として、講習会的なものにニーズがあるという事ならば、同窓会等を利用して、卒業生たちの支援となるような内容を実施したい。毎回、同窓会はオリンピックイヤーに行われているので、来年の内容に盛り込めるかを検討したい。内容としては、アプリケーションの講習会やPC(Mac)等の展示会なども面白いかも知れない。また、茨城県にも、各業界の団体等が存在する。それらの団体と繋がりを持つ事も地元の企業に従事する者にとっては大切な事である。ボランティアで参加できるイベント情報や各団体へ紹介する機会を設ける事はデザイン業界で働く楽しさにも繋がっていくと考えている。また、歴代の作品とイベントの写真を映像で流してみるなど、卒業生たちがデザインの業務に励める試みを実施していきたい。</p>
	<p>◆平成28年度より保護者との接点を模索し、海外研修プログラムは引き続き検討する</p> <p>対象：学校</p> <p>授業：海外研修</p>
<p>⑧委員意見(高橋委員)</p> <p>4月の保護者説明会以外にも保護者と係わる機会が必要ではないかと感じた。海外研修プログラムなどは難しいだろうか。</p>	<p>⑧保護者説明会は、入学した当初以外は実施していない。目的は、保護者へ本校の教育内容の理解を促すものである。保護者に本校の良き理解者になってもらえれば、口コミで本校の情報を伝えてくれる事も考えられる。他の機会での実施の有無について、意思確認をできる機会があればアンケートなどを</p>

	<p>実施したい。</p> <p>海外研修プログラムは、学生たちの視野を広げるためにはとても良いプログラムである。以前はアメリカのサンフランシスコに姉妹校があり、そちらで海外研修を行っていたが、経費的な面で断念している。近年はアジアのデザイン業界の成長も目覚ましいものがあるので、視察に向いたが決定的に実施するまでには至っていない。この件に関しては、検討事項として常に掲げられている内容なので、継続的に視察等の調査を行ない、目標を立てて検討をしていきたい。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>⑨評価基準 6 教育環境</p>	<p>◆平成28年度より学校施設に対してルールを打ち出し、設備購入についても無理のない程度に検討する</p> <p>対象:学校</p> <p>授業:</p>
<p>⑨委員意見(青木委員)</p> <p>学生満足度アンケートに空調についての意見が多く書かれていたので、空調設備の入替えが出来て良かった。マシンやPCは授業で使用する際に不足や不調があると学生の意欲が無くなったり、制作の進行が遅れたりするので、今後も整備が行き届くようにしてほしい。</p>	<p>⑨空調については、報告であった通り新しいシステムに切り替えている。それを使用しても不満の声があがってくるようなら学校側のルールを整える必要がある。しっかりとしたルールが打ち出されていれば、多少の暑い寒いがあったとしてもルールを守るしかない。期間と設定温度を適宜決めて対応をしていきたい。また、マシンについては台数は足りているものの、古いマシンも存在している。それに関しては随時、無理のない程度に買い足していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>⑩評価基準 9 教育環境</p>	<p>◆平成28年度よりコンプライアンスの重要性を理解させる指導を行うことを検討する</p> <p>対象：学校</p> <p>授業：</p>
<p>⑩委員意見(高橋委員)</p> <p>カリキュラムも時代の流れに対応しており、サポート体制も整っている。柔軟にバックアップをされていて大学とは違うと感じた。専門職業大学を見据えていくとなると、コンプライアンスの指導はますます必要になる。コピーアンドペーストの問題が取り沙汰されているが、してはいけない、自分のためにならないという事の意識付けを頭が柔軟な1年生のうちに行ってもらいたい。</p>	<p>⑩この問題に対しても、前から必要事項として対応を行っている。実例として、東京より講師を招き学生に指導を行っている。しかし、それを行っているのは最終学年の就職前である。高橋委員は、頭が柔軟で、デザインの考え方を勉強し始めた時期に行うことを指摘してくれた。最終学年で行う内容と入学当初で行う内容に分けてコンプライアンスの指導を行うと良いと感じた。現在、東京オリンピックのロゴデザインの問題が取りざたされている。自分がオリジナルだと思っても、問題が起こることもある。学生には、問題になった経緯や、そのような問題にならないための対策を指導したい。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>⑪その他</p>	<p>◆平成28年度も引き続き専門職業大学への移行を検討する</p> <p>対象：学校</p> <p>授業：</p>
<p>⑪委員意見(山田委員)</p> <p>規模が大きくなると学生へ目が届かなくなる。このままの規模で運営してほしい。</p> <p>委員意見(住谷委員)</p> <p>専門学校は重要だと思っている。今は大学を卒業しても何も出来ない人が多い。そこでなぜあえて専門職業大学にしなければならないのか。昔は小学校し</p>	<p>⑪茨城県水戸市でデザイン業界の人材育成を行う教育機関を運営していくのであれば、地域との繋がりは最も重要視しなければならないと考えている。この街もかつては栄えていたが、現在の街中は閑散としているところも多い。学生たちは本校を卒業すると、地元に関係する企業に就職をしていく者が殆どである。専門学校であっても新学校種の専門職業大学であっても、地域に求められる人材を育成していかなくてはならない。働く前に力をつける場所が専門学校であり専門職業大学である。規模が大きくなるかは、認定の条件次第で左右されることがあるかも知れないが、生徒数を増やすことが目的ではない。学校の周辺では新市民会館が建設予定で、それを生かして中心市街地も生まれ変わろうとしている。</p>

か出ていない大工などの職人も多くいたが、今はそういう職人がいなくなった。専門性を考えたら専門職業大学より専門職業高校の方が良いのではないか。専門職業大学よりも早く職に就くことができる。

そんな中で、本校の教育に関わる業種は多数あると考えている。それらの動きを視野に入れつつ学科の構成と運営を考えなくてはならない。必要とされる教育ができる場所として本校は存在したい。今度の新しい専門職業大学が設立される時に、マイスター制度に近いものが確立され、日本の職業が重要視される事を望みたい。

また、一条校になり国からの補助金等を受けることが可能になれば学費が安くなり、今までは経済的な理由で進路変更をしなければならなかった学生も本校の教育を受ける事ができる。

学びたいと思う者が増えていく事が世の中の必然的な流れであれば、本校も対応が必要だと考えている。学びやすい環境が整い、職業人としてのレベルも上がるのであれば、本校は専門職業大学というシステムを受け入れていきたい。最後に、専門職業大学になることは、本校の運営だけを考えたことではなく、より地域に求められる学校へと進化できるチャンスだと考えている。